

企業ネットワークに目を向けてみて

Akira Suzuki

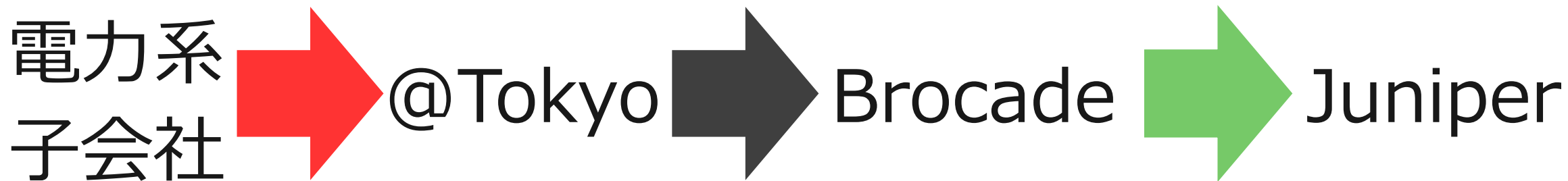
VMware
Senior Systems Engineer

自己紹介

鈴木 章 (すずき あきら)です。

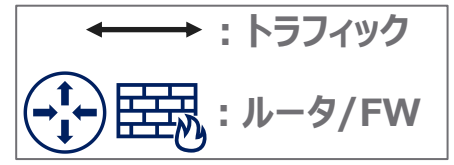
今、VMwareで働いています。

<経歴>



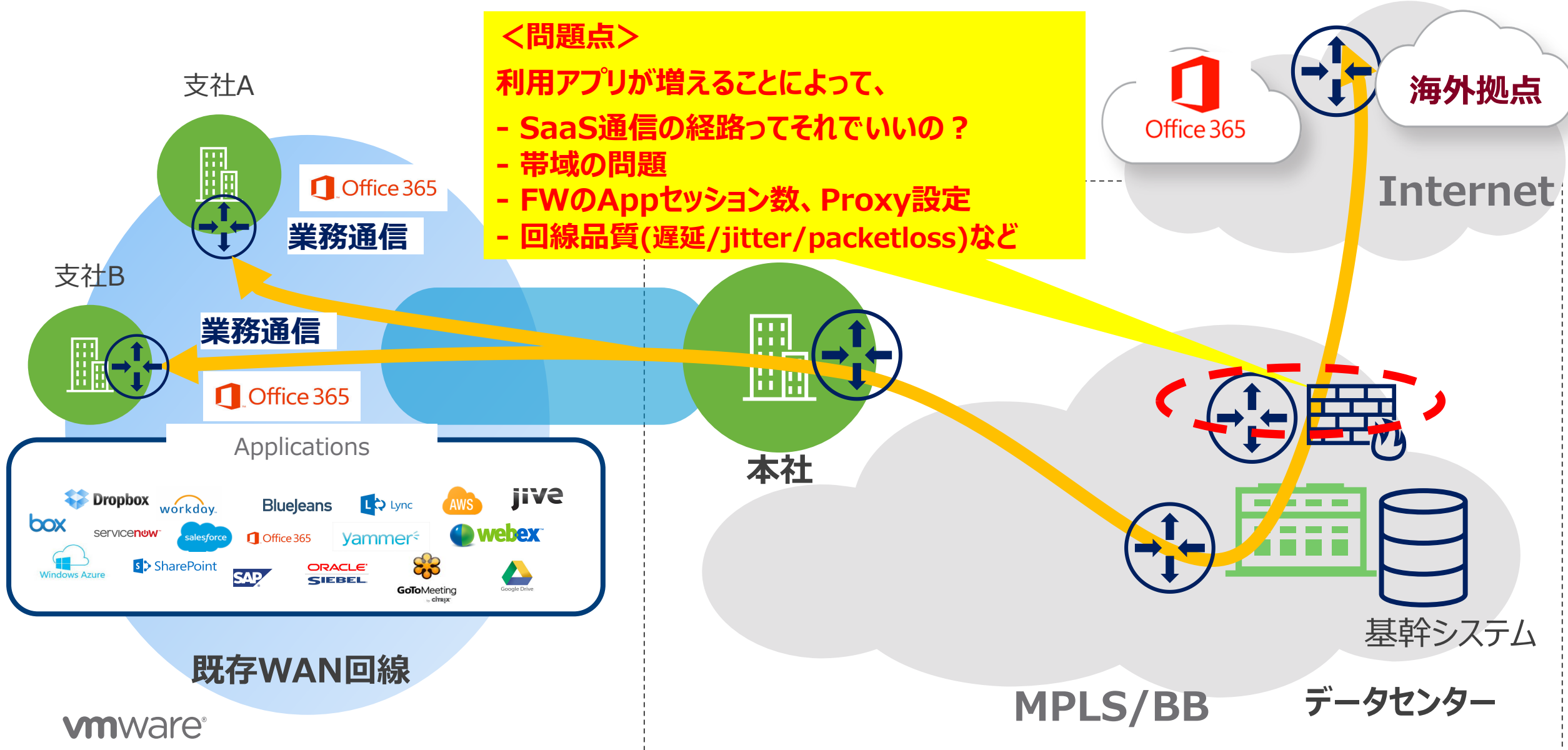
今の企業ネットワーク例

従来の企業ネットワーク例



<問題点>

- 利用アプリが増えることによって、
- SaaS通信の経路ってそれでいいの？
 - 帯域の問題
 - FWのAppセッション数、Proxy設定
 - 回線品質(遅延/jitter/packetloss)など



昨今の企業ネットワークの動向について

さきに述べた環境やそれ以外の問題を改善するためには、

- 運用コスト低減しつつ、NW環境の見直し

- IT/NW運用者の負荷低減(ZTP利用による時間短縮など)
- HW機器の効率的な利用化
- クラウドAppが増えたことによりAPPでの通信制御、QoSなど

- 運用の見える化

- ネットワークの可視化
- トラブルポイント早期発見、自動的なダイナミック制御

- 既存環境のクラウド化

- オンプレミスからパブリック/ハイブリッドクラウドへの切り替え
- SaaS環境の積極的な利用

実情は！

時間をかければ

対応可能！

けど、すぐには無理！

その手軽な打開策・・・

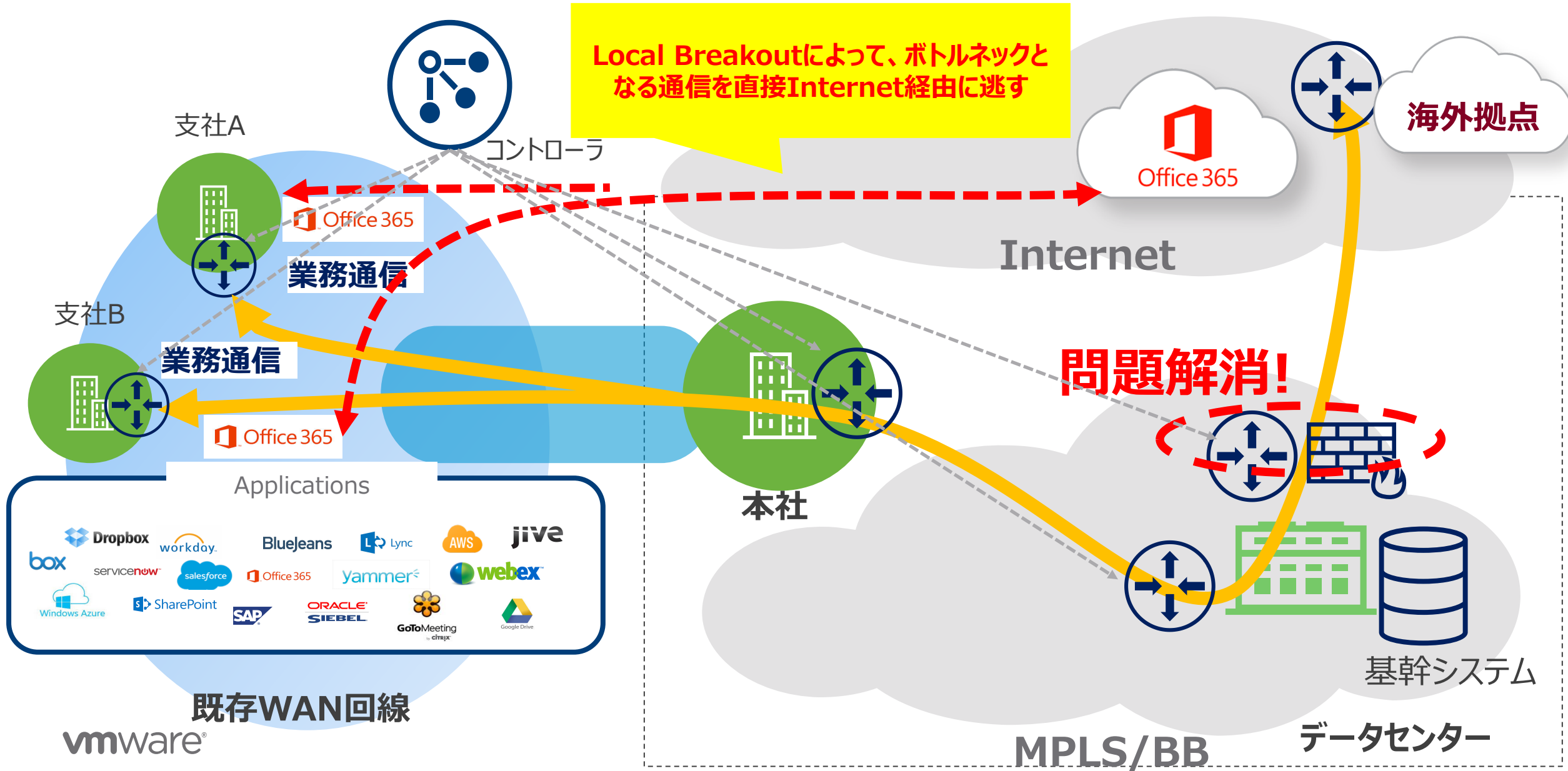
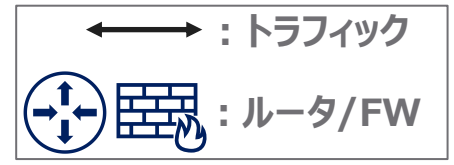
SD-WAN

(Software Defined – Wide Area network)

なんです。

さあ、SD-WANで実現してみると～！

SD-WANを使った企業ネットワーク例



まとめ

SD-WANを利用して改善できること

1. DCのトラフィック帯域の確保

0365のSaaSアプリやYoutubeといった帯域やセッションを使う通信を直接Internetに逃すことによってDCから抜ける通信の削減が可能

2. NW運用の負荷軽減、NWの見える化

コントローラ制御により、GUIベースでのオペレータの技術レベルの平準化、NW環境見える化（通信帯域 latency/loss/Jitterなど、障害時のログ管理など）
そして、ZTPによる障害時のコストや時間削減が可能

3. SaaS環境移行も容易

Appベースでトラフィック制御が可能なため、細かにAppごとの通信経路の選択が可能。またルーティングベース制御より容易(DPI)

Thanks !

<参考までに>

ONUG(Open Networking User Group)でも
SD-WANの定義がされています。

ONUG SD-WAN 10ヶ条

1. Active／Active構成で様々な回線・WANの制御が可能
2. コモディティHW上で、仮想的にCPEを提供
3. アプリケーション等のポリシーに基づき、ダイナミック な制御が可能
4. 個別のアプリに対して、可視化・優先順位付け、ステアリングが可能
5. 可用性・柔軟性の高い・柔軟性の高いハイブリッドなWAN構築が可能
6. L2／L3に対応
7. 拠点、アプリケーション、VPN品質等をダッシュボードでレポーティング
8. オープンなノースバウンド ノースバウンドAPIを持ちコントローラー へのアクセスや制御
9. ゼロタッチプロビジョニングに対応
10. FIPS 10.FIPS-140-2を取得